

養蚕業をめぐる課題への対応（案）

資料 3

	課 題	分 野	緊急度	対 応
桑の栽培	栽培管理	桑の栽培管理・蚕の飼育に関する技術		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期中期事業計画において検討。
			・ 近年難防除雑草（朝鮮アサガオ、カラスウリ、オヒシバ）が増加。	
			・ 桑園の害虫（スケバハゴロモ、スキムシ、アメリカシロヒトリ）について残効期間の短い殺虫剤がない。	
			・ 温暖化により春先の凍霜害のリスク増大。	
3-1 蚕の飼育	壮蚕飼育	養蚕経営		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期中期事業計画において検討。
			・ 夏期高温により夏蚕期及び初秋蚕期の猛暑対策が必要。	
			・ 濃病、硬化病、細菌病が発生すると壊滅的打撃を受ける。	
	・ 上蔭時の人手が足りない。			
	養蚕経営		・ 肥料、農薬、燃油等の高騰により、経営コスト増大。	
			・ 繭の価格が上がらない。	
・ 高齢化し、後継者確保が難しい。				
	・ 事業継承が難しい。			
	・ 製糸工場が遠い。			

桑の栽培	桑苗	・桑苗生産業者が限られている（群馬県1社、JAおやま管内、宮城県蚕糸会）ため増産が困難。	養蚕の支援体制		・令和7年度に桑園のデータベース作成を作成し、改植計画等の基礎資料とする計画。	
		・全国的な栽培面積や品種構成の把握ができていない。				
		・改植要望は見られず、改植計画がない。（15～20年サイクルが理想）				
	収穫機材	・条桑収穫機の製造メーカーがない。				・次期中期事業計画において検討。
桑育種	・研究者、専門家、現場指導者がいない。					
蚕種製造	・蚕種製造は赤字状態。					
	・民間4社（富田蚕種製造所、株式会社高原社、上田蚕種製造所、愛媛蚕種株式会社）と群馬県、蚕糸科学技術研究所のみ。					
稚蚕飼育	・共同稚蚕飼育所の閉鎖・集約により、遠方から稚蚕をとりよせなければならない農家が増加。					
	・運搬コスト増加及び稚蚕の品質低下が懸念。					
蚕具	・飼育装置、上族用器具、自動収繭毛羽取機等の製造・修理メーカーがなく、中古機材や廃業農家の機械を再利用。					
蚕品種	・研究者、専門家、現場指導者がいない。					
製糸	工場	・国産繭の出荷先製糸工場は5社（碓氷製糸（株）、松岡（株）、（株）宮坂製糸所、松澤製糸所、西予市野村シルク博物館）のみ。				
		・国産繭の減少により稼働率低下。				
	製糸機械	・研究者がいなく、修理業者が皆無。廃業機からの部品で対応。				
その他		・製糸業の先の事業（撚糸・機織等）もコロナ禍で減少。			・経済産業省の取組との連携を検討。	
		・教本（標準指導書）の新書がない。			・業務を進めながら検討。（R7は桑園管理関係等）	